

「違い」を認め合う

尊さを伝えたい。

その信念のもと、

教育の道を歩む。

米国Ed.W.クラーク高校 日本語教師

本田 真奈美さん

愛知淑徳大学文学部英文学科を1981年3月に卒業。事務職や英語講師などを経て渡米し、日系企業などに勤務。その後ネバダ州の大学や高校の日本語教師となり、「2018 Elgin Heinz Teacher Award」を受賞。

大学で多様な価値観に触れ、海外への思いを持ち続ける。

旅行番組を見て憧れていた海外に少しでも近づきたいと考え、英語を学ぶため英文学科(現・総合英語学科)に入学しました。英文学の学修、教職課程の履修、他大学との交流など、学生時代は何にでも挑戦できた時期だったと思います。4年次の夏は、アルバイトをして貯めた資金でアメリカサンフランシスコへ。ホームステイを楽しみ、異文化を感じました。愛知淑徳大学での4年間、多様な価値観を持つ友人たちや尊敬できる恩師・富安玲子名誉教授をはじめさまざまな人と出会い、視野を広げたことで自分を豊かにできたと感謝しています。

大学卒業後は企業の事務職や英語教室の講師などをしていましたが、海外への思いが心にくさぶり続けていました。人生を大きく動かしたのは30代の頃。「日本とアメリカの橋渡しができる仕事に就きたい」と決意し、MBA(経営学修士)を取得するために渡米しました。以来約30年、アメリカでキャリアを積み重ねています。

日本語教師として、生徒たちの心を広げて。

アメリカで働きながら結婚・出産も経験し、子育てをしているときに再び転機が訪れました。日本の文部科学省認定在外教育施設ラスベガス学園の講師として働いたのを機に、日本語教育の道を歩み始めたのです。ネバダ州立大学での勤務を経て、16年前からはクラーク高校の日本語教師となり、現在に至ります。新たなチャレンジで役立った

のが、学生時代に教職課程で得た教育学の知識です。生徒たちが日本語を楽しく学べるように、よりおもしろい授業づくりを追求し続けてきました。

サンフランシスコ領事館や地域の方々にもご協力いただき、日本に関する講演会やイベントなどにも力を注いでいます。こうした日本語教育の活動が認められ、2018年には米日財団「Elgin Heinz Teacher Award」という名誉ある賞をいただきました。生徒たちをはじめ支えてくださった皆さんへの感謝の念に堪えません。

日本語教師として願っているのは、生徒たちが日本語を通して「自分とは異なるもの」への関心や敬意を持ち、視野を広げてほしいということ。世界中のさまざまな人と「違い」を認め合える心を育て、その一歩となる授業をしたいと考えています。

愛知淑徳で学ぶ学生・生徒の皆さんも、視野を広げて思い切つて何にでも挑戦してください。どんな経験も無駄にはなりません。自分の思いや夢を追い続け、前に進めるようエールを送ります。



友人や恩師との出会いに恵まれ、自分の関心があるままにできた貴重な4年間でした。



日本に関する講演会を定期的に開催。2012年には東日本大震災時にアメリカ軍の「TOMODACHI作戦」を指揮した方をお招きしました。

